

◆意見交換その1：『第1次総合計画における主な施策の検証』

[作業内容] 市民意識調査において、「重要度が高く×満足度が低い」テーマの中から8つを選択し、該当する主な基本施策について市民目線で施策の取り組み状況を検証。

[作業結果]

■テーマ①：子どもの教育環境の整備・充実 ⇒ 【施策1】生きる力を育む教育の推進

[担当：C班]

施策No.	施策項目名	ご意見等(これまでの取組状況について思うこと)	
		評価できるところ	課題・提案等
1-1	誰でも楽しく、いきいきと学べる教育の推進		■幼稚園・保育園から小・中学校への連携、高校・大学への見通し。 (学習だけではなく、生活習慣や人付き合いなどの人間性を高めることも考え、教育全般の環境を継続することが必要)
1-2	いじめや不登校の解消		■学級崩壊は行政や学校の努力で解消可能だが、いじめは個々に複雑な要素が含まれており、解決は難しい。
1-3	学習環境の充実	○自校給食は地元食材を極力利用しており評価できる。 ○肥満児が減ったことも実感できる。	
1-5	小中学校等への就学援助及び大学等への修学支援	○五泉市の就学援助は充実しており、需要を満たしている。	
1-6	安全体制の確立		■学校のセキュリティが強すぎて、地域との交流が困難な面もある(締め切られて校内に入れない)。 ■30年以上前から危険な通学路がそのままになっている。
その他		○運動会で、子どものいない住民も集まって盛り上がり、地域のつながりを実感できた。(学校が地域の核となるよい例)	■子どもを連れて行く場がない、親が子どもを見る時間がないため、学童保育の利用が増えている。 ■ゆとり教育等の弊害で先生の負担が増しているのでは？

■テーマ②：子育て支援策 ⇒ 【施策12】子育て支援の充実

[担当：D班]

施策No.	施策項目名	評価できるところ	課題・提案等
12-1	地域で支える子育て支援の充実		■ファミリー・サポート自体が知られていない。ニーズの把握と、協力できる人のさらなる掘り起こしによるマッチングが必要。
12-3	子育ての交流の場及び情報の提供の充実	○子育て支援センターはヘビーユーザーが多く、利用者の輪が出来上がっている。	■施設利用者数は多いが、子育て世代の割合からすると利用率が低い。
12-5	子育て支援ネットワークづくり		■新たな利用者にとっては、すでに利用者の輪ができています、入りにくい雰囲気がある。
12-6	子育てに伴う経済的負担の軽減	○土曜保育などの保育サービスが充実してきた。	■経済的支援が望まれているが、知られていない部分もある。今ある制度を強化するほか、全体的にPRが大事！

■テーマ③：医療整備の充実 ⇒ 【施策18】安全・安心な保健・医療体制の充実

[担当：D班]

施策No.	施策項目名	評価できるところ	課題・提案等
18-1	地域医療体制の明確化と充実		■病院にかかりすぎる高齢者が多い。薬が多くなり、結局飲まない。税金の無駄がある。 ■個人の我慢が足りないので、自己管理を強化すべき。
18-3	新型感染症や自然災害への対応、体制の強化	○「五泉あんしんメール」の情報は便利。	■自然災害の少ない五泉は安心だが、熊本地震の様に油断大敵。個人の備えが大事。
18-4	市外医療機関との連携		■市内に産科がなく、安心して子どもが産めない。
18-5	休日・夜間等の救急医療体制の明確化	○インターネットで当番医を確認できる。	■当番医を確認できても、対応できない症状もある。複数科にできないか？

■テーマ④：商店街などへの支援 ⇒ 【施策29】商業の活性化

[担当：B班]

施策No.	施策項目名	評価できるところ	課題・提案等
29-1	イベント開催やPR活動等による商店街の活性化	○イルミネーションを秋に計画中。	■開催するイベントの宣伝が足りない。 ■ポイントカードは大変人気があるが、共通商品券の利用は乏しい。 ■子育て世代やシルバー世代への優遇ポイントなどのサービス充実がほしい。
29-2	各種融資制度による商店経営の安定化		■市から商工会への補助金が少ない。
29-3	次代を担う後継者の育成		■後継者育成だけでなく、新しい店主を開拓する(起業促進)。 ■複合施設の計画などにおいても三条市の「三条ものづくり学校」に学ぶところがあるのでは？
29-4	商業の販路拡大の推進	○ニットの産業振興(海外進出など) ○里芋(帛乙女)のブランド化	■ニットにいくら補助していて、具体的にどの位効果が上がっているのか？ ■特産品(名物)の完成度が低い(里芋まんじゅうなどの菓子類加工品など)。
29-5	中心市街地活性化の推進	○里芋加工食を提供する飲食店間の連携	■旧ジャスコ跡地問題(地権者、アスベスト)が長引いている。 ■イベントとまち歩きや食、観光地との連携(回遊) ■購入食品をその場で食べられると滞留や賑わいにつながる(イートイン、オープンカフェなど)。 ■空き店舗の利活用対策の強化・工夫(運動、趣味の場等。市で借り上げて3か月くらい貸し出す制度がほしい)。
29-6	買物に利用しやすい公共交通の整備		■バスルートの改変(既存のバスルートの消滅)により、買物や通院困難な高齢者が生じている。 ■バス(ふれあいバス)は用が足りているとは思えない。 ■一方で、公共交通が充実すると、民業圧迫になることも考えられる。
29-7	市民が利用しやすい定期市場の推進	○市場は人気がある。	■市場は商店街の前のアーケードを利用してはどうか(身近な市場通り)。 ■朝市のほかに週に一度夕市(春～秋)を開催できるようにPRして客を掘り起こす努力がほしい。

■テーマ⑤:工業の振興 ⇒ 【施策 30】工業の活性化

[担当:A班]

施策 No.	施策項目名	ご意見等(これまでの状況について思うこと)	
		評価できるところ	課題・提案等
30-1	地域内交流による地場産業の活性化の推進	○他市町村に比べて“連携”は進んでいると思う。 (JA・商工会議所・ニット組合など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『日本一のニット』をもっと使う・活かすことが必要。まず知ってもらうことが大事。</li> <li>■都市間での競争の時代である。“日本一”ということを含めて活用することが必要。</li> <li>■「産業観光」への取組は今後必要。「ないもの」を求めるのではなく、「あるもの」を如何に活用するかを考えていくべき。</li> <li>■五泉ニット工業協同組合としては、ニットのブランド化に向けた課題として、人材育成／地域活性化／広報・PR／販路・市場開拓の4点を掲げている。これらを、市の総合計画の中でも位置付け、協調・協働していくことも必要と考えている。</li> <li>■2/10の「ニットの日」の取り組みなどを通じて、五泉市の他業種も含めた一体的な連携活動を展開すべきである。</li> <li>■市内・県内はもとより、全国への発信にはメディアの活用は重要。地域ブランドとしての知名度向上は欠かせない。</li> </ul>
30-2	工場の増設支援及び企業誘致の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>■地場産業は“撤退しない”産業であることを認識する必要がある。 (大手メーカーなどは工場を誘致しても景気が悪くなると撤退する場合もある。)</li> </ul>
30-4	次代を担う後継者の育成		<ul style="list-style-type: none"> <li>■市民がニットのことを知らなくなったことに憂慮している。</li> <li>■ニット関連工場の工場見学会を実施した。最近の市民は、ニットに関する知識が希薄になっている。こうした取り組みは市の主要な産業を知ってもらう「きっかけ」になる。また観光目的でも重要である。</li> <li>■ニット業界として本年の就職の合同説明会に参加した。学生だけでなく教職員へのPRも行った。こうした活動は重要。</li> </ul>
30-5	工業の販路拡大の推進	○市役所職員向けに、庁内の制服をニットで作った(数量限定)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市内の学校の制服をニットで作るなどの取組もアイデアとしては良い。</li> <li>■「五泉=ニット」をよりPRすることで他の業種にも波及させることができるのではないかと。</li> </ul>

■テーマ⑥:農業の振興 ⇒ 【施策 32】農産物のブランド化と安全で安心な食の推進

[担当:C班]

施策 No.	施策項目名	ご意見等(これまでの状況について思うこと)	
		評価できるところ	課題・提案等
32-1	農産物の五泉ブランド確立と生産の推進	○帛乙女の他に、最近レンコンを出荷している。 ○イチゴは五泉の採れたての新鮮イチゴが一番おいしい。	
32-2	地産地消の推進	○自校給食で無農薬野菜を使用。 ○朝市などで新鮮な野菜を販売。○トレーサビリティが充実。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校で野菜づくりを行ったらどうか。→食育と連携。市場には出ないまがったキュウリなどを実感できる。</li> </ul>
32-3	環境保全型農業の推進	○安全安心な(おいしい)農産物がとれる地域イメージがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■減農薬、無農薬を充実させる必要があるのでは。</li> </ul>
32-4	特産物を活用した加工品等の開発		<ul style="list-style-type: none"> <li>■農産物加工の動きはあるが実行できていない。現状は素材を販売している。</li> </ul>
32-5	流通体制の整備と販路拡大の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>■敢えて流通させない、五泉でないと買えない仕組みも良い。 ■その代わりに、市内に販売拠点を整備したい。</li> </ul>
その他			<ul style="list-style-type: none"> <li>■空き農地の活用(農地所有者と農業したい人の仲介)。 ■農業を支援する人のサポート制度(新潟市で実施中)。</li> </ul>

■テーマ⑦:観光の振興 ⇒ 【施策 36】地域資源を活かした観光と都市交流

[担当:B班]

施策 No.	施策項目名	ご意見等(これまでの状況について思うこと)	
		評価できるところ	課題・提案等
36-1	観光客を受け入れる体制の強化	○ボランティアガイドの活躍 ○新潟大学村松農場の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■観光地としてのイメージが弱い。観光で五泉に来たいと思う人がどれだけいるか？まずは五泉に来てもらうことが必要。そしてお金を落としてもらうための方策も必要。それが地域経済活性化にもつながる。</li> <li>■ボランティアガイドの活動状況が見えない。ガイドを児童や生徒にやってもらうと、ふるさと教育としても有効。</li> <li>■公・商・工・農・民のつながりの強化。例えば新大村松農場と連携した農業の6次産業化、観光との連携など。</li> <li>■新観光協会の存在が曖昧である。 ■公共交通が不十分。</li> </ul>
36-2	魅力的なイベント・観光ルートの創出	○花シリーズの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■花シリーズでは限界を感じる。 ■村松公園の改修(桜が老木、入口が砂利道)</li> <li>■花シリーズはマスコミをもっと活用したPRを拡大する。市長がPR隊長として頑張ってもらいたい。</li> <li>■既存資源のグレードアップ(村松公園の桜といっても全国の桜の名所に比べたら貧弱)</li> <li>■花を見に来ている人をいかに市内に観光(回遊)してもらえるか知恵を絞ってほしい。平日に来たら得があるような。</li> </ul>
		○紅葉マラソンには全国から人が集まる。 ○ニットの産業観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>■通年型観光として、観光とスポーツとの連携を。例えば春に「桜マラソン」として年に2度マラソンを開催するなど。</li> <li>■工場などの会社見学に対し補助金を出す。三条市では行われている。</li> </ul>
36-3	都市間交流の活性化の推進	○「表参道・新潟館ネスパス」など市外(首都圏など)での取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■旅行先の中にネスパスめぐりをとりいれてほしい。</li> </ul>
		○都市間交流は盛ん	<ul style="list-style-type: none"> <li>■都市間交流の参加者が高齢化しているので、若い人に参加してもらう工夫がほしい。</li> </ul>
		○里芋加工食の地元グルメ化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■里芋加工食以外のグルメの開発。</li> </ul>
36-4	誘客宣伝の強化	○ニットの海外進出	<ul style="list-style-type: none"> <li>■海外との交流。例えばニットで交流が始まったイタリアでさといも麺(パスタ?)を売り込むなど。</li> </ul>
		○良いもの(観光資源、農産物など)は沢山ある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■資源や素材の有効活用。 ■宣伝が下手。</li> <li>■SNSの有効性には疑問(若い人にはいいが年配者には不適。従来のメディアの方が多世代にわかりやすく伝わる)。</li> </ul>
36-5	歴史・文化・産業の観光資源化の促進	○産業や歴史文化、自然観光資源が豊富。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■川、山などの観光資源化</li> </ul>
		○体験型観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>■体験型観光の充実(田植え、稲刈り、合宿等) ■複合施設はいいが、建設予定地はいかがなものか？</li> <li>■まちの駅は子どもやお年寄りが気軽に集まれるような場所に(村松地区にも開設してほしい)。</li> </ul>

■テーマ⑧:公共交通機関の利便性向上 ⇒ 【施策 40】公共交通機関の利用しやすい環境整備

[担当:A班]

施策 No.	施策項目名	ご意見等(これまでの状況について思うこと)	
		評価できるところ	課題・提案等
40-1	公共交通の維持・確保	○バスの運転手の好感度は高い。乗客とのコミュニケーションが好評である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地方部にあって車社会が進んでも、都市として公共交通は必要。</li> <li>■ 利用者は増えているようであるが、実際のところ費用対効果はどうか。投資効率性だけで判断するわけにはいかないが、把握しておく必要はある。</li> </ul>
40-2	公共交通の利用促進	○利用者が増えていることは評価すべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 予約をしなければいけないことの煩わしさがあると聞いたことがある。</li> <li>■ 現状では、固定客が多いものと思われる。更なる顧客(利用者)の開拓が必要。</li> <li>■ 現状で、家族と同居し送迎してもらえる環境にある高齢者もいるが、高齢化が進む中で将来はどうなるかわからない。</li> <li>■ 市民の認知度がまだまだ低い。利用したことが無い市民が多く、サービスを知ってもらう(体験してもらう)ことが必要。</li> <li>■ 鉄道の増便については、以前 JR に要望したことがあると聞いたが、「一定の乗客数がないと困難」との回答だったと思う。人が乗らないとサービスは向上しない。</li> </ul>
40-3	公共交通利用のための環境整備	○運転することができない障がいをもっている方や免許を持っていない(返納した)高齢者にとっては貴重な移動手段の1つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車を運転できない方の利用しやすい環境整備が求められる。</li> </ul>
40-4	磐越西線の利便性向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パークアンドライドの利用促進には、JR の利便性向上が不可欠。 ■ 運行本数(便数)が少ないこと。</li> <li>■ 利用しない市民が多い(年に数回程度の利用)。</li> <li>■ ニット関連のメーカーさんが五泉に来る際は、新潟駅まで送迎している。(現状では「電車を使って五泉駅まで来てください」と言えない)</li> </ul>
40-5	五泉駅周辺の整備促進	○駅南側については、包括支援センターや公園、学童クラブなどが出来ることで綺麗になった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市外から電車で五泉駅まで来ても、駅からの移動手段が乏しい。 ■ 駅前(北口)の方がさびしい状況である。</li> <li>■ 南口には色々な施設ができるが、全体としてどのように活性化したいのかビジョンが見えてこない面もある。</li> <li>■ 東南環状線が整備されることで、駅南側がどのように変わるのか? 整備効果を活用することが必要。</li> </ul>
その他			<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公共交通の必要性は感じるが、一方で道路整備もまだまだ必要があると感じる。車社会は依然変わることはないし、新潟市のサービスへの依存が一層高まる中で、道路による結びつきを一層高めることが必要ではないか。</li> </ul>

■班分け表 (◎:会長、○:副会長)

	A 班		B 班		C 班		D 班	
1	五泉建設業協同組合 副理事長	近藤 輝夫	村松商工会 理事	今井 将人	JA新潟みらい 五泉園芸組織連絡協議会 前副会長	阿部 良夫	五泉市老人クラブ連合会 会長	羽田 松美
2	五泉ニット工業協同組合 事務局長	高橋 正春	五泉市観光協会 理事	瀧澤 準	五泉市母子保健推進員の会 副会長	豊島 恭子	五泉市小中学校PTA連絡協議会 会長	魚野 ルミ
3	五泉市障がい者総合支援協議会 副会長	中山 孝子	JA新潟みらい 村松特産振興協議会 副会長	川瀬 和博	五泉市小中学校校長会 五泉南小学校 校長	羽生 泰彦	五泉市体育協会 会長	◎田島 富太
4			五泉地域認定農業者会 会長	齋藤 昌彦	市民公募委員	斉藤 明	一般社団法人五泉青年会議所 理事	伊藤 傑
5			五泉市消費者協会 会長	山下 キミ子			新潟県新潟地域振興局企画振興部 地域振興課長	安達 和行

<欠席>

1	五泉商工会議所 商業部会副会長	田中 弘
2	五泉織物工業協同組合 副理事長	○横野 恒明
3	村松地域認定農業者会議 会長	牛腸 明仁
4	五泉市文化協会 副会長	岡村 正人



◆意見交換その2:『新たな総合計画の作りかた』

[作業内容] 「市民にとってわかりやすい計画書にするにはどうすればよいか」という観点から、第2次総合計画の作りかたについて改善すべき点やアイデア、工夫などの意見出しを実施。

[作業結果]

項目	ご意見
掲載内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○冒頭は、「子どもが考える将来の夢・まち」の紹介が良い。(子どもの作品が載れば、親も見る)</li> <li>○平成27年に制定された「市民憲章」との連携を図ってほしい。</li> </ul>
わかりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字が多く、興味が持てない。</li> <li>○パッと見のわかりやすさ、グラフなどに配慮してほしい。</li> <li>○漫画のようにわかりやすいものがよい。概要を知った上で詳しく知りたい人は、現在のようなスタイルのページに促す。</li> </ul>